

グローバルにいがた



from NY

江口 真由美さん =新潟市中央区出身=



昨年、金融投資会社を退職した後、さまざまなボランティア活動を楽しまれています。日時、場所、興味ある分野の検索が容易な登録システムによって、誰でも空き時間を利用して気軽に参加できます。

私が今年2月に参加したのは、ニューヨーク市の学童保育で、日本文化の一端を紹介することでした。

低所得者層の多い地区の公立小学校の子どもたちに世界地図で日本を探してもらい、日本語で1から10を覚えてもらう。日本についてワークブックのゲームや折り紙での手裏剣作りも好評でした。

不器用な子にもできるかという心配はよそに、みんな簡単な説明で上手に作っていました。日頃、接する機会の少ない子

国際交流拠点から



第1月曜掲載

新潟日報社が開設した米ニューヨーク(NY)、ブラジル・サンパウロ、中国・上海、欧州(パリ)の国際交流拠点などを通じ、海外で暮らす本県関係者から現地の様子をレポートしてもらい、毎月第1月曜日に紹介しています。また、新潟日報ホームページ「モア」にも掲載し、感想や意見を受け付けています。

市民の連帯一層強く

日本語で1から10を教えるボランティア

「9・11」の時もニューヨーク市民の助け合いの精神に胸を打たれましたが、このウィルスとの闘いでより一層、市民の連帯を強く感じようになりました。

毎日午後7時、あちこちのアパートの窓やベランダから住人が拍手をし、声を上げ、鍋をたたいて前線に働く人々に感謝の気持ちを表します。

市民の連帯を示すパフォーマンス。ボランティア精神に通じるものを感じます。

(江口さんは1989年からニューヨークに住んでいます)

from サンパウロ



鈴木 雅夫さん =ジャーナリスト=



サンパウロでは、さまざまなマスクを見かけるようになった

パンデミック世界的大流行となった新型コロナウイルス。最も感染者が多いサンパウロは3月初旬から広がり始め、医療体制の整っていないアマゾン地域や北東地域の被害も目立ち始

州が3月24日、4月7日を「3月31日」から「4月7日」まで、不要不急の商業活動を規制する政令を出し

from パリ

水島 優さん =新潟田市出身=



子どもたちによる医療従事者への感謝のメッセージ。住宅の入り口に貼られていた

フランスでは5月11日、約2カ月にわたる外出禁止が緩和され、外出許可証がなくても自宅から100メートル以内の移動が可能になりました。

新型コロナウイルスが流行しているかどうかは「病院の受け入れ能力」「PCR検査の能力」「重症の入院患者数」の三つで判断されます。

改善がみられたエリアの外出禁止が緩和されたものの収束へは程遠く、長期戦になりつつあります。

外出禁止期間中、私の住んでいるエリアでは、買い物以外で街を歩く人はほとんどなく、見たことがないような静けさでした。

昨年からのストライキに続く形で外出禁止となりました。パリでは外出の自粛要請が出る前と比べて自転車通勤をしている人が6割以上も増えているとのこと。

色柄多彩マスク着用

だが、効果は出なかった。この政令はサンパウロ州内全てのレストラン、喫茶店、バー、ナイトクラブ、理美容室などが強制的に休業(テリパリーサービスは規制対象外)、公園や美術館、博物館なども閉鎖する大規模なものだった。

この政策が功を奏しないのは、人々の移動自粛率が45%から50%と低いからだ。国民性なのだろう、陽気で朗らかなブラジル人は「巣こもり」は得意でなく、何かあると集まりたがる性格が災いしている。

最近では自粛疲れもあって、外出者が増えていることも影響している。加えて、経済が停滞したため失業者が日雇いの仕事を求めて出歩かざるを得ないことも感染に拍車をかけている。サンパウロ市では感染を防ぐため早い段階からマスク着用を推奨したが、ブラジル人はマスクを嫌う。

また、家の中で靴を履いているブラジル人も、玄関で靴を脱ぎ履きして生活している。このため、靴の消毒の必要性が高くなり、1カ月以上待たなければ購入できない。

マンシオンなどでは玄関ドアの外側に家族の靴が並べて置かれている。ブラジルの生活様式が変わろうとしている。(鈴木さんは母が三条市出身)

たゆたえども沈まず

テレワークだけでなく、学校の授業のオンライン化も日本に比べてずっとスムーズに移行できているようです。マクロン大統領の「戦争状態」との厳しい発言があつたから、あつという間に世界が変わつたような感じがします。

自粛自前、僕が握手をしないことで「体に触れることについて」気にすきだと言っていた友人も、今ではソーシャルディスタンスをとるのが普通になっています。

これまで、この国ではマスクをつけている人なんて見たことがなかったのですが、今ではマスクをして握手ではなく、手を振ってあいさつしている光景が当たり前になっています。

市民に配られるマスクを取りに行きたときに、担当の方が最近日本のニュースを見ないけど大丈夫なのかと明るく感心して心配してくれました。フランスではテロの時も連帯という言葉が多く使われましたが、今回も同じように連帯し、みんなで乗り越えることを強調しています。

パリ市の標語に「たゆたえども沈まず」というのがあります。新しい生活習慣や働き方など時代と共に揺れ動くものはありませんが、それに順応しながら一番良い季節を過ごしたいと思っています。

(水島さんは1983年生まれ。在仏16年、雑誌や広告の仕事をして写真家として活動しています)

新鮮な香り&コクをお届けするための、こだわり大公開! meiji

おいしさの敵は空気!
「新鮮こだわりパック」が牛乳を空気から守るよ。

新鮮な生乳のおいしさ、そのまま
生乳100%使用
成分無調整
ナチュラルテイスト製法
900ml

開封時にご注目!
このふくらみが「おいしさそのまま」
閉じ込めた証なんだ。

開封前
開封後

新鮮な生乳のおいしさ、そのまま
生乳100%使用
成分無調整
ナチュラルテイスト製法
900ml

製法はもちろん、
生乳選びから容器まで。
新鮮な香り&コクにとことん
こだわっているんだね!

新鮮な生乳のおいしさ、そのまま
生乳100%使用
成分無調整
ナチュラルテイスト製法
900ml

株式会社 明治